

いしずえ 刻銘板 除幕

～平和を伝え 学び 祈りをささげる拠点に～

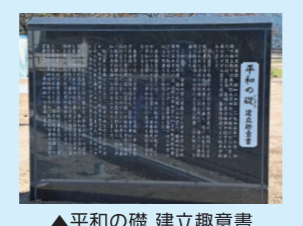
特集2

上で、後世に戦争と平和をしっかりと伝えていくためにも、市内の忠魂碑を整理するとともに、市民平和運動の拠点として、新たな平和祈念のモニュメントを建立することは、意義あることとの答申がまとめられました。

市では市民会議の答申を受け、今年度から事業費約6千万円をかけて「平和の礎」の整備に着手し、11月23日には刻銘板のみの除幕式を執り行いました。



▲平和の礎に設置された刻銘板



▲平和の礎 建立趣意書



▲完成イメージ

《寄せられたメッセージの一例》

私の父は国鉄の機関士として昭和20年7月28日に彦根米原間の仏生山トンネルを出た所を機銃掃射を受け殉職しました。母は米原駅鉄道診療所に遺体を引き取りに行き、今でも米原のことが忘れられず、二度と戦争を起ささない事を願い投稿しました。



▲戦争犠牲者の家族による平和へのメッセージを綴った『戦争犠牲者の記憶』



非核・平和都市宣言



平和の礎

戦争の悲惨さだけでなく、心の奥の悲しみを知ってほしい

私たちは遺族会ができた当初から市内にある忠魂碑の管理・運営を行ってきました。しかし、遺族会員の高齢化により法要や清掃ができなくなっているほか、忠魂碑のもとへ行くことすらできない人もいます。また、忠魂碑は明治から昭和期に建立されており、老朽化が進んでいました。そういった中で、市と相談し、今回平和の礎が建立されることを有難く思っています。



市遺族会 会長
市民とともに作る非核・平和米原市民会議委員

瀬戸川 恒雄さん

そして戦没者1656人が刻銘できたこと、平和学習などを通して次の世代へ残す拠点ができたことが良かったと感じています。

刻まれた1677人

刻銘板を設置する平和の礎は、市の中心に近く、伊吹山が望める池下地先で整備を進めています。

刻銘板は全部で7基あり、市遺族会が保有する名簿に記載された戦没者1656人のお名前と、戦争で犠牲となった家族の方を戦争犠牲者として刻銘希望される方を募集したところ、市内外から21人の申し込みがあり、合わせて1677人の名前が刻まれています。

平和へのメッセージ

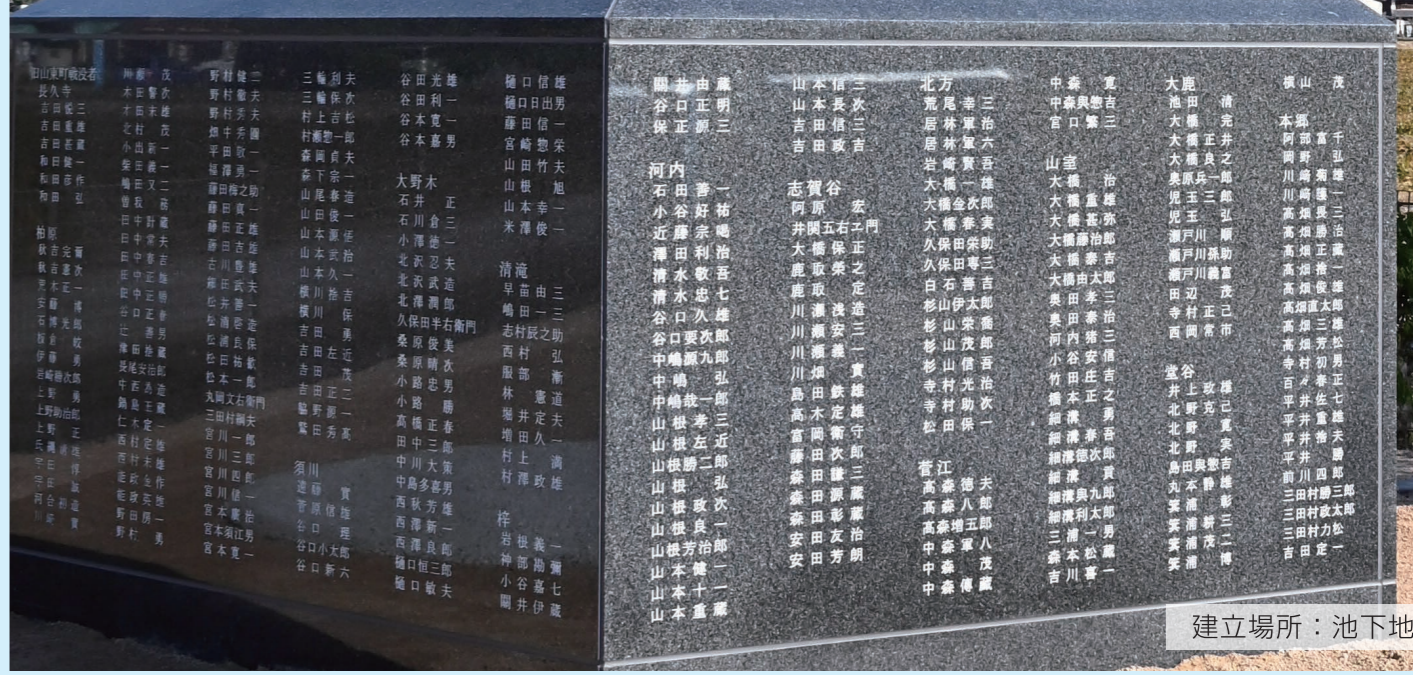
刻銘希望と同時に戦争犠牲者21人のご家族による平和へのメッセージを募り、それらを綴った冊子「戦争犠牲者の記憶」を作成しました。市では、大切な人が犠牲となった事実を正しく未来に伝えるため、この冊子を平和学習などに活用していきます。

今後住所や国籍を問わず戦争によって犠牲となられた方の刻銘希望者を定期的に募っていく予定です。

市民平和運動へ

今後の整備の予定としては、来年3月頃に広島県の被ばく樹木等の植栽を行い、非核平和都市宣言を行った6月24日に完成する予定です。

悲しみと憎しみしか生まない悲惨な戦争の記憶を未来に継承し、戦争で犠牲となった方への追悼と恒久平和を願うためにも、平和の礎を「追悼と平和祈念」の新たな拠点として、市民平和運動を進めていきます。



建立場所：池下地先

戦争を伝えていく使命

終戦から78年が経過し、戦争体験者は減り、伝えていくことへの危機感があります。また、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナの緊迫した情勢を目の当たりにすると、戦争は昔の話ではなくなっ

てしまいました。

戦争は最大の人権侵害です。武力行使は何も生まないことを、私たちは唯一の被爆国として伝えていく使命があります。

市は平成17年に非核・平和都市を宣言し、これまでから核兵器の廃絶と世界の恒久平和を訴えてきました。

また、市内の各地には明治から昭和にかけて、戦没者を慰霊・顕彰する目的で12基の忠魂碑が建立されており、主に市遺族会や自治会によって維持管理されてきました。

しかし、忠魂碑の老朽化による倒壊の危険性と、さらに遺族会員の高齢化により維持管理をしていくことが厳しい状況です。

そこで、過去への追悼と将来に向けての平和祈念の歩みを進めるため、学識経験者や遺族会、市民らで構成された「市民とともに作る非核平和米原市民会議」を令和3年11月に立ち上げました。

この市民会議で議論いただいた